

# 京林大だより

No.38



絵：卒業生 熊走君

## ドイツ研修2018

6/3~6/10



今年も2年生が、5泊8日の日程でドイツ研修に行ってきました。

研修内容は、主に6項目です。

- ①野外博物館の見学（ドイツ人と森との関係を歴史と文化から学ぶ）
- ②製材所の見学（ドイツウヒを中心とした大規模製材所）
- ③森の幼稚園（森林の中での幼児教育）
- ④営林署森林官からのレクチャー（市民向け森林環境教育について）
- ⑤高性能林業機械作業現場の見学（大型機械を使った集材作業）
- ⑥ロッテンブルグ林業大学訪問（学校施設の見学、京林大の紹介、演習林にて現地講義）

先進地とよばれるドイツ林業ですが、現地の状況を見聞きでき、将来、日本の林業を支える学生には良い経験と交流ができました。

短い期間でしたが、黒い森と呼ばれる地域を中心に森林・林業とドイツの文化に触れた充実した研修旅行でした。



森の幼稚園では地元の幼稚園児と遊びを通じて交流を深めました。



高性能林業機械の集材現場も訪れました。



野外博物館では300年ほど前の水力製材機を動かしてもらいました。



初日はドイツ南部にあるノイシュバンシュタイン城の見学をしました。



ロッテンブルグ林業大学では演習林で広葉樹林の育成方法について教わりました。

## 林政ニュース

### 『早生樹』

聞きなれない言葉かもしれませんが、今林業界でホットな話題になっています。

家具や内装には主に広葉樹材が使われますが、世界的に有用な広葉樹材の入手が環境保護や資源管理意識の向上などにより困難になっています。そこで、センダンなどの国産早生樹が注目を集めています。

例えばセンダンでは、植生すると9年生で胸高直径が24cmになり、自生木の中には20年ぐらいで1mになるものもあるようです。

また、強度も十分あり試作した家具の評判も上々のようです。

センダンは、ジャパニーズマホガニーとして昔から使われていたことから有望なようで、家具業界も注目しています。

林大の敷地内にも早生樹の一種であるチャンテンモドキが、びっくりするほど大きくなっています。

耕作放棄地や地の利の良い場所での植林は如何でしょうか？

### 『認定者銘板の完成』

－森林公共政策士－

－高性能林業機械操作士－

本校では、「森林公共政策士」と「高性能林業機械操作士」という独自資格を設けています。

「公共政策士」では公共政策に関する専門的な授業による知識の習得、「機械操作士」では複数の林業機械操作に必要な知識・技術の習得が必要であり、それぞれに一定水準以上の基準を満たした学生に付与されます。

この度、5期生までの歴代の認定者の名前を記した銘板を作成し、第1教室と実習棟に掲げました。

その一覧に自分の名前も刻みたいと望み向上心を燃やす学生が、これから更に増えることを期待しています。

森林公共政策士認定者

高性能林業機械操作士認

約130名の参加。

校歌斉唱、主催者挨拶、40年の歩み紹介、に続いて、感謝状授与。安部守一県知事から直接、それを受けたのは私でした。創設以来今なお続く外部講師（今は私ただ1人になりました）としての功績に対するものでした。賞状は、A3版ヒノキー一枚板にレーザープリント。手にずしりと40年の重みを感じました。

そして、来賓祝辞、祝電披露あつて、記念式典は閉会。

続いて、県知事を囲む鼎談会。テーマは「これからの林業大学校を考える」で、知事をコーディネーターとして、信州大学植木達人教授、作家の浜田久美子氏、勝野木材勝野智明社長が、多方面から様々な話題を展開。－森林経営管理能力、異業種との連携、木材生産だけでない総合化、安全教育、研究伴ってこそ優れた教育、補助金より意欲、3K林業：健康・観光・格好いい、といったキーワードが飛び交いました。

そして祝賀宴会。乾杯！ トーク、トーク、万歳！！

先輩長野林大、今後ますますの発展を祈るばかり。後輩京都林大もがんばろう。33年差は何ともならないが...



### 校長室より

#### 先輩長野林大創立40周年

校長 只木良也

長野県木曾谷の福島町は、今も中仙道宿場の香りを保存する町。ここは林業のふる里でもあり、この地に長野県立林業大学校が創設されて、今年40周年。

その記念式典が、木曾町文化交流センターを会場として6月9日、催されました。

1979年の設立。その1年前に信州大学理学部教授として赴任していた私は、長野林大発足と同時にその外部講師として参画することになりました。その後、名古屋大学農学部、環境関連企業と転々しましたが、長野林大講師は、今もつづいております。

その経験・実績は、2012年京都林大創設に向かったの準備に、かなり役立ったと思います。先輩校の長野林大をモデルとすべき点は多々あったからです。

40周年記念式典は、国、県、市町村、諸団体からの来賓、歴代職員、卒業生、関係者など